

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。初夏のような日も多くなってきましたが、もうすぐ梅雨。くれぐれもご自愛ください。

さて、日本をより良い方向に進めるためには、いろいろな政策や改革に取り組まなくてはなりません。

その際の「壁」「障害」になること、それは「ニムビィシンドローム」という現象です。

米国生まれの耳慣れない言葉ですが、「ニムビィ」は「Not In My Back Yard (ノットインマイバックヤード)」の単語の頭文字「NIMBY」のことです。

「バックヤード」とは「裏庭」のこと。「私の裏庭では余計なことはしないでほしい」「私に不利益なことはするな」という意味です。つまり、「ニムビィシンドローム」とは「みんなが自分に嫌なことはするなと主張する現象」のこと

ことを表現しています。

例えば予算。事業仕分けで無駄な予算、削るべき予算を特定しても、その予算にかかわっている人たちは「自分の予算を削るのはやめてほしい」という「ニムビィシンドローム」。

道路も空港も新幹線も港湾もつくりすぎました。そこで「この空港は廃止しよう」「この道路建設は中止しよう」といっても、やはりその地域の人は「それはやめてほしい」という「ニムビィシンドローム」。

そういう気持ちになるのも「人情」としては理解できます。人間の本質的な利己心と言ってもいいでしょう。「ニムビィシンドローム」という言葉が米国で誕生したことから明らかのように、どこの国でもあることです。しかし問題はその強弱。

日本の財政赤字は世界最悪。

日本は「ニムビィシンドローム」がちよつと強すぎるのかもしれない。

よく考えると普天間問題も「ニムビィシンドローム」。沖縄県以外の四十六都道府県が「自分のところに米軍基地を持つてこないでくれ」と言い張れば、当然沖縄県の負担は減りません。それでも沖縄県から米軍基地を減らそうとすれば、国外移転しかありません。

「おれがおれがのが(我)を捨てて、おかげさまでのげで生きろ」。どこかのお寺の山門で見かけた一文が胸に染みます。

財政問題も防衛問題も、「おかげさま」という気持ちをもち、みんなで支えあう姿勢を高めていくことが日本をより良い方向に進めるための「鍵」のような気がします。

頑張ります。

※

耕平



かわら版執筆者 大塚耕平

1959年生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。その後、旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。現在2期目。地元の覚王山に事務所を開き、故郷 覚王山の地元振興と歴史・文化遺産の継承・復興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で足かけ9年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

2009年9月18日鳩山由紀夫内閣の内閣府副大臣を拝命。現在は金融、郵政改革、地域主権推進、拉致問題など15を担務とする。

毎月21日、覚王山日泰寺は
「弘法さん」

「かわら版配り」ボランティア募集!

21日の8:40~10:30頃山門へおいでください。

お問い合わせ:052(757)1955 大塚耕平事務所(皇田/佐久間)

「おかげさま」の気持ちで頑張ります!

